

TECHNICAL DATA

種 類	カチオン・アクリル樹脂エマルション系 プライマー（水系クリヤータイプ）
商 品 名	J S浸透性プライマー

改訂版数：	第4版
-------	-----

DATE： 2023. 4. 1



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 種類：カチオン・アクリル樹脂エマルジョン系下地処理材（水系クリアタイプ）
- 商品名：J S浸透性プライマー
- 用途：①壁・床コンクリート面の表面強化
②壁・床コンクリート面へのポリマーセメントモルタルの接着安定化
- 適用下地
：コンクリート・セメントモルタル・コンクリートブロック等
- 工程

工程	材料・調合	施工用具	塗回数	間隔時間 (20℃)	所要量
確認	J S浸透性プライマーの付着を阻害する物質（埃、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分など）をワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエス等で除去し、必要に応じて水洗いし十分に乾燥させてください。				
塗布	J S浸透性 プライマー 主材：15kg (無希釈)	ウールローラー 水性刷毛 エアレス等	1	3以上	50～150m ² /15kg 0.1 ～ 0.3kg/m ²

● 施工上の要点

- (1) 下地の乾燥は、十分行って下さい。
- (2) コンクリート面の突起物及びレイトランスは、グラインダーがけ又は皮スキなどで除去します。
- (3) 汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いして下さい。
- (4) 塗面に残留する金属（番線・くぎ等）は除去し、エポキシ系防錆塗料で防錆処理して下さい。
- (5) ローラー塗り・刷毛塗り又はスプレーにて塗布して下さい。
- (6) J S浸透性プライマー塗布後、長期間の放置は塵埃等の付着によってセメントの接着を阻害する恐れがありますので、なるべく早い時期に次工程を行って下さい。

組 成 表

種 類 カチオン・アクリル樹脂エマルジョン系下地処理材（水系クリアタイプ）

商 品 名 JS浸透性プライマー

荷 姿 JS浸透性プライマー NET 15kg/缶入

組 成

内 容	重 量 (%)
変性アクリル樹脂エマルジョン	14 ~ 16
清 水	84 ~ 86
計	100

—以下余白—

性能試験成績書

種類	カチオン・アクリル樹脂エマルジョン系下地処理材（水系クリアタイプ）			
製品名	J S 浸透性プライマー			
供試材料	J S 浸透性プライマー			
試験方法	接着試験結果			
上塗りモルタルの種類	養生条件	材齢	接着強度 (N/mm ²)	破断部位 (%)
J S プレミックスカチオン 100	標準養生	7日	1.95	材料凝集：100
		28日	2.42	材料凝集：100
	温冷繰返し	—	2.35	材料凝集：100
J S プレミックス床用	標準養生	7日	1.81	材料凝集：100
		28日	2.14	材料凝集：100
	温冷繰返し	—	2.10	材料凝集：100
<p>※備考</p> <p>基 盤…J I S 規定のコンクリート平板</p> <p>塗布条件…J S 浸透性プライマーを塗布し（塗布量：200 g/m²）、3時間乾燥させた。</p> <p>モルタル…上記2種類のモルタル塗り付け養生し乾燥させた。なお、塗厚はJ S プレミックスカチオン100、J S プレミックス床用ともに2mm厚とした。</p> <p>養生条件…標準養生：20℃、65%RH</p> <p>温冷繰返し：標準養生28日後に温冷繰返し（水中浸漬→-20℃→50℃を10サイクル）</p>				

*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

一般的な注意事項

《下地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率 10%以下、pH10 以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「KSクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ALC やコンクリートなどで巣穴、段差がある場合は、下地調整塗材（JIS A 6916 相当品）等で処理してください。
- 水洗い後は晴天下で必ず 1 日以上乾燥させてください。下地の乾燥が不十分の場合、塗膜の白濁等、水分の影響による外観上の不具合が目立ちやすくなります。
- 内部での施工の場合、汚染物の除去は水を含ませた清潔な布で拭き取り後、乾いた布で乾拭きして乾燥させてください。汚れがひどい場合は水で中性洗剤を薄めて拭き取ってください。
- 下地の劣化が著しい場合、施工は避けてください。
- 経年したサイディングボード面への塗装は、表層内劣化部分から剥離する恐れがあります。試験施工を行って付着性の確認を行ってください。
- 無機塗料、特殊下地への塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 布クロス、紙クロス、汚染防止加工されたクロスには塗装しないでください。剥離を起こす場合があります。
- ドアのゴムパッキンなど可塑剤を含むものやシーリング材への塗装は塗膜の汚染、剥離などが起こる場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、軟質塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。
- 蓄熱しやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

《環境》

- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が 5℃以下、湿度 85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施 工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 塗料は、均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
- 材料の希釈量は、所定の希釈量範囲内、所定の所要量で事前に試験塗りなどを行ない、決定してください。希釈の過多、不足はダレや隠ぺい不足、仕上がりがムラの原因になります。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- シーリング材は可塑剤の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。
シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜の汚染、剥離、収縮割れなど不具合を起こすことがあります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。
磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
- 改修工事の場合、下地を侵し既存塗膜に膨れ・縮み（リフティング）などの異常が発生することがあります。事前に試し塗りをを行い確認してください。
特に、2液反応硬化形弱溶剤系塗料での改修において、既存下地が塗料用シンナーで容易に溶解する場合、縮みや膨れが発生する恐れがあるため、塗装は避けてください

《材 料》

- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になると、艶引け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS (安全データシート：旧 MSDS) を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 開封後、やむを得ず保管する場合は無希釈の状態に密栓して冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようにしてください。